



国際第2委員会（委員数：21名／担当：山中常務理事）

◆担当領域：欧州、アフリカ、PCT

◆活動方針：

- ・グローバルに活躍できる知財人材となるための機会を提供
- ・国内外への情報発信によるJIPA会員企業への貢献

◆主な活動

◇会議派遣：

- ・PCT作業部会、SACEPO（今年度はいずれもweb開催）

◇JIPA内連携：

- ・WIPO-PJ

◇意見交換：

- ・JPO定例（審査基準室・品質管理室）

◇発信：

- ・論説、外国特許ニュース、JIPAシンポ、部会発表、パブコメ対応



第1小委員会（委員数：8名）

- ◆ テーマ名：EPOの審査スピードと審査の品質に関する研究
- ◆ 狙い：EPOによる審査スピードが早くなっているが※、それにより審査の品質が影響を受けているかを調査する。5年前と10年前に出願された欧州出願を下記の観点で比較する。
- ◆ 内容の概略
 - ・サーチ能力…欧州出願を拒絶査定に導いた先行文献を、EPOが他国特許庁に先駆けて引用したか。また、対応外国の審査における状況も確認。
 - ・審査結果の安定性…異議申立による無効化率。
 - ・審査官の対応…審査経過では拒絶理由があったものの、補正をせずに反論のみで拒絶理由が解消された登録案件。
- ◆ アウトプット & スケジュール
知財管理誌への論説投稿（21年度内に初稿作成完）

※EPO年次報告書より。有効な審査請求から特許付与を意図する通知までの期間は、



2020年度：25.4か月 2019年度：28.1か月 2018年度：31.8か月

～世界から期待され、世界をリードするJIPA～



第2小委員会（委員数：7名）

- ◆ テーマ名：英独仏以外の欧州諸国の知財制度の研究 その2
- ◆ 狙い：欧州における主要国(英独仏)以外への事業展開の際に有用な知財情報を提供する。訴訟等の知財リスクや、出願国の選定に役立つ各種統計・制度情報を取りまとめる。昨年度はイタリア・スペイン・スウェーデン・ポーランドについて実施。今年度はさらに他国を調査する。
- ◆ 内容の概略：ロシア・オランダ・フィンランドを対象に以下の事項を調査する。
 - 出願・審査制度の調査
 - 各国の出願の実態の調査
 - 訴訟実態の調査
- ◆ アウトプット & スケジュール
 - 知財管理誌への論説投稿（21年度内に初稿作成完）



第3小委員会（委員数：6名）

- ◆ テーマ名：5庁以外のISAの質に関する研究
- ◆ 狙い：今後ISAが増えていくことが予想されるため、5庁以外のISAの質を調査し、会員企業の指針となる情報の提供と、5庁以外のISAへの政策提言を目指す。
- ◆ 内容の概略：
調査対象：
 - ・ シンガポール特許庁※1（現在調査中）
 - ・ ISR発行件数が多いISA※2から複数（今後）調査内容（検討中）：
 - ※1 日本からISAとして選択可能（2016.4.1～）
 - ※2 5庁に続いてロシア、カナダ、オーストラリア、インドの順に多い（2020年）
 - ・ 各ISAのサーチ内容（引例数、非特許・非母国語文献の割合等）
 - ・ 各ISA⇒JP移行に際しての特許性評価の変化、引例追加の有無等
- ◆ アウトプット & スケジュール
知財管理誌への論説投稿（21年度内に初稿作成完）